

令和4年度 地域ぐるみ獣害対策推進事業 業務委託報告書 【概要版】

事業の目的

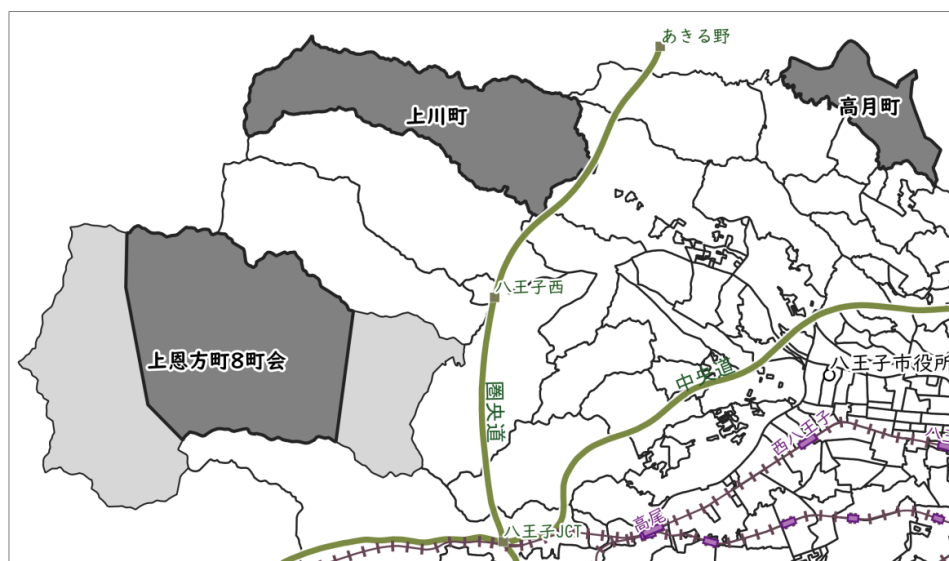
近年の野生動物被害の深刻化・広域化に対応するには、行政主導の捕獲や防除柵だけでは困難です。

野生動物を人の暮らしに近づけさせない環境整備や防除の取組を地域の実情に合わせ地域ぐるみで継続的に実施することが重要です。

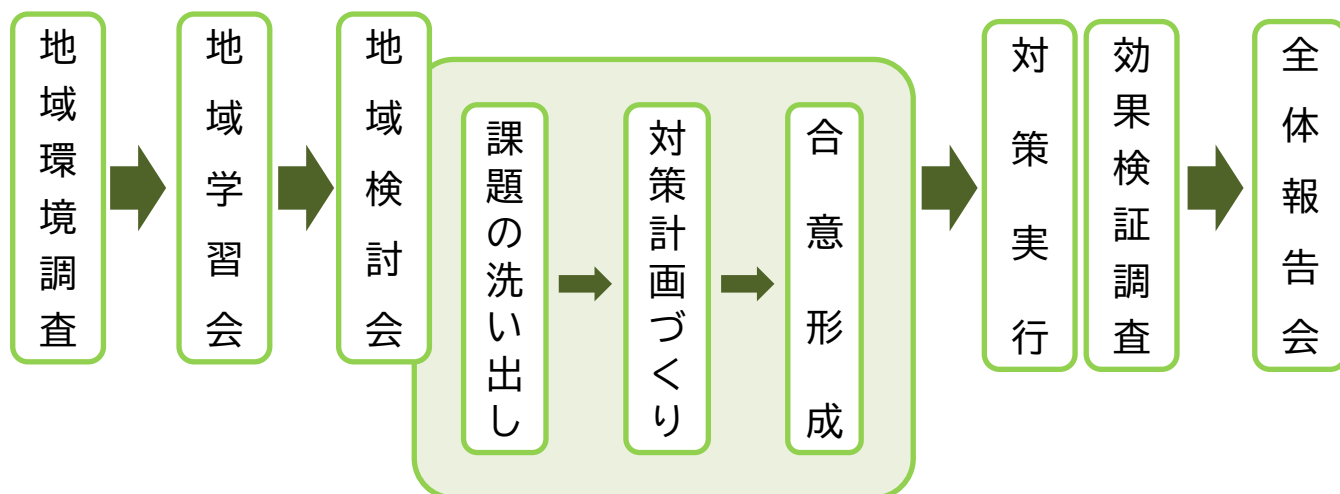
そこで、八王子市では、野生動物の生態・行動特性についての学習会や、現状把握のための環境点検などを行い、自然環境・地形・作物など地域の実情にあった対策を住民が主体的に考え、取り組むことで農作物や生活被害の防止・軽減を図る地域ぐるみの取組を支援することとなりました。

対象地域

八王子市上恩方町(8町会)・上川町・高月町の3地区



事業の流れ



地域(集落)環境調査

被害対策手法の基本は、地域(集落)内に動物のエサとなるものを無くして誘引しない、また、隠れ場やねぐらを与えないことです。

そこで、地域内を「動物目線」になって歩き、①動物のエサとなっているもの、②動物の隠れ場となっている場所について調査し、地図を作成しました。

① 動物のエサ

- 農地の対策実施状況
⇒ 電気柵等 柵
- 果樹
- 「無意識な餌付け」



よい電気柵



動物のエサとなるクワ

② 動物の隠れ場

- イノシシやシカの隠れ場、通り道
- ハクビシンやアライグマのねぐら
⇒ やぶ、空家の位置



イノシシの足跡



隠れ場となるヤブ

地域学習会

野生動物の行動特性を踏まえた対策の正しい知識について、専門講師による「学習会」を実施しました。



講師:古谷益郎氏

地域検討会

事前調査結果を基に住民のみなさんと地域における獣害対策を検討する「地域検討会」をワークショップ形式で行い、課題や具体的な対策について話し合いました。



検討会のようす




課題が貼られた地図



検討結果の発表

上恩方町（8町会）

地域環境調査 結果

○良かった点	×被害対策が必要(課題)
<ul style="list-style-type: none">○農地周辺の草刈がされている。○電気柵が普及している。○電気柵が管理、工夫されている農地が多くある。○GPS発信機を装着したサルの群れを、住民がよく観察し動きを把握できている。○被害対策の参加者が多い。  <p>川井野群サル</p>	<ul style="list-style-type: none">×一部の電気柵が正しく設置されていない。×一部の柵が老朽化し、効果がなくなっている。×サルは個体数が100頭程度の川井野群であり、群れの分裂の恐れがある。他の群れの出没も確認されており被害が拡大している。×シカの分布が拡大している。×イノシシの痕跡が多数ある。×耕作放棄地が増えてきている。×ユズ・ブルーベリーなどの果樹が多くある。×山の林縁はヤブになっている。

地域検討会 結果

① 正しい電気柵の設置

- ・ 市の補助金を申請する際に、電気柵の正しい設置方法を周知してほしい。
- ・ 正しく設置されている電気柵をモデルとして、見学してもらう。
- ・ 正しい電気柵の設置方法に関するチラシを作成し、回覧する。

② 放棄果樹対策

- ・ クリの木を切ることによってイノシシの対策にもなる。
- ・ 大変な作業だが、全国各地で、この対策が成果をあげている。
- ・ 今後は、候補地をあげて、伐採していけると良い。

③ サル(川井野群)捕獲強化

- ・ サル捕獲用ICT大型檻を導入する。
- ・ エサの管理、見回り、草刈等は地域で実施する。
- ・ サルのエサが少ない時期に捕獲を実施する(二週間程度・年2回)

取り組み開始

④ サル追い払い強化

- ・ サル追い払い道具 パチンコ等の導入



地域環境調査 結果

○良かった点

- 農地周辺の草刈がされている。
- 芋掘りなど地域イベントが盛んであり、地域内の交流がされている。
- 電気柵が普及している。



よいイノシシ柵

×被害対策が必要(課題)

- ×一部の電気柵が正しく設置されていない。
- ×一部の柵が老朽化し、効果がなくなっている。
- ×シカの分布が拡大している。
- ×巨木化したクリ園が多くある。
- ×竹などが河畔林に繁茂している。
- ×サル、イノシシの被害が多い。



大豆シカの被害

地域検討会 結果

① 鳥獣被害対策への参加者を増やす

- ・「自然観察会」、「上川のイメージアップ地図づくり」などを通じ、身近な野生獣との共存を学ぶ学習会等を開催する。
- ・チラシ等を見て誰もが参加したくなるよう、広報のやり方を工夫する。

② 無意識な餌付けを知る

- ・勉強会の資料、検討会の内容を回覧する。
- ・町会で無意識な餌付けとなっているものをピックアップして、地図に落とす(廃棄作物捨て場など)。
- ・回覧板を活用し、共有する。

③ 侵入防止対策の強化

- ・広域的な住宅を守るための柵が欲しい。
- ・電気柵があるがサルが侵入しているため、サルの侵入を防ぐための対策指導を依頼する。
- ・被害を出す動物を特定するため、自動撮影カメラを活用したい。

④ サル(夏の美山群)追い払い強化

- ・追い払いをする人数が少ないため、LINEなど活用して連絡網をつくる。
- ・ハンターが来ているオレンジの「ベスト」を配布したい。
- ・追い払い資器材について知りたい。

取り組み開始

地域環境調査 結果

○良かった点

- 農地周辺の草刈がされている。
- 新規就農者がいる。
- 電気柵が普及している。
- 動物の痕跡が多い場所にわなが置かれている。
- 放棄果樹が少ない。



×被害対策が必要(課題)

- ×一部の電気柵が正しく設置されていない。
- ×耕作放棄地や旧畜舎が荒れている場所があるが、所有者との連絡が取れず対応困難である。
- ×山の林縁、河川がヤブとなり、イノシシの隠れ場となっている。
- ×イノシシ・アライグマが多数生息している。
- ×シカが出没し始めている。

地域検討会 結果

① ヤブ刈払い

◆耕作放棄地

- ・夏の勉強会以降、地主が刈り払いを実施した。
- ・シノダケのやぶが1カ所残っている。

◆多摩川

- ・自治会から要望を出す。

② イノシシ、アライグマ 捕獲強化

- ・既存のはこわなを活用する(移設、増設)。
- ・町会でわなの見回り、エサ管理体制をつくる。
- ・アライグマ捕獲は、個人で取り組む。市や農協の貸し出し罠を活用する。
- ・農業従事者自らが狩猟免許を取得する。

③ 侵入防止対策

◆電気柵

- ・テスターを購入することを検討する。

◆多摩川河川堤防付近への広域防護柵の設置

- ・設置許可、費用負担、維持管理等を考えると現実的ではない

④ 組織作り

- ・鳥獣対策検討会の参加者が少なく、合意形成が図れなかったため、町会、総会の中で、鳥獣被害対策を議題としてあげて、議論したい。



高月で撮影されたアライグマ

全体報告会

日時:2023年2月17日(金)14時~16時
場所:東京たま未来メッセ 3階 第1会議室
内容:(1)基調講演

講師:江口祐輔氏

(麻布大学教授、麻布大学フィールドワークセンター長、
おおち山くじら研究所長)

(2)令和4年度 地域ぐるみ獣害対策推進事業 取り組み状況報告

(3)講評と今後の対策方針アドバイス

講師:古谷益朗氏(野生生物研究所ネイチャーステーション)

講師:江口祐輔氏

古谷先生からのアドバイス

○上恩方町:サルの頭数が多すぎる。今後捕獲が進み、サルが減っても被害が出るため、追い払いが重要である。サルは減ると見つけづらくなっていく。いかにコントロールできるか戦略を立てる必要がある。電気柵で守られている農地が多くても、放任果樹が多いと集落が魅力的になってしまう。対策をとるべきである。山形県では、放任果樹を伐採する取り組みが進み、動物が寄り付かなくなってきている。

○上川町:自然を学べるような集まりを開き、人を集める方法がある。夏に来る美山群は何を食べているか?サルのエサとなっている食べ物を減らせれば、サルは来なくなる。

○高月町:アライグマがかなりの密度でいる。山と川から侵入。広域的な柵がよいのではないか。

江口先生からのアドバイス

人が集まらないと課題になっていたが、まずは集まってくれる人を大事にする。「地域ぐるみ」にしばられないで、来てくれた人が対策を個別に強化する。正しい柵を増やして→地域全体を守ることにつながる。その後に、人をどうやって集めるか考えればよい。

大分県の鳥獣被害対策について紹介

大分県はイノシシやシカの有害捕獲数が全国でトップだが、被害が減らなかった。農家さんは捕獲で被害が減らないことを知っている。

アナログな「総合対策」を集落ごとに実施し、捕獲以外の対策を進めている。県では対策の進捗状況を集落ごとに把握しており、被害がなくなった集落が徐々に増えている。

